

# Q&A

## 下行結腸から直腸まで高度狭窄をきたした成人男性の1例

### 【問 題】

病歴や臨床経過，既往歴などから疑われる診断は？

症例：39歳，男性。

既往歴：幼少期よりアトピー性皮膚炎・喘息，15歳時，肝膿瘍・敗血症，37歳時～，肛門周囲膿瘍・難治性痔瘻。

家族歴：特記事項なし。

現病歴：難治性痔瘻で数年間近医にかかりつけであった。数日前からの腹痛を主訴に前医を受診。下行結腸狭窄による腸閉塞を指摘され当科紹介となった。以前より便の狭小化を認めていたが，痔瘻のためと考えていた。

画像所見：CTおよび病理結果を示す (Figure 1, 2)。下部消化管内視鏡検査では管腔の狭小化および易出血性があり，細径スコープが辛うじて通過した (Figure 3)。

血液検査所見：WBC 7800/ $\mu$ l (Neut 79%)，Hb 9.2g/dl，Plt 38.3万/ $\mu$ l，CRP 4.63mg/dl，CEA <0.5ng/ml，CA19-9 2IU/ml。

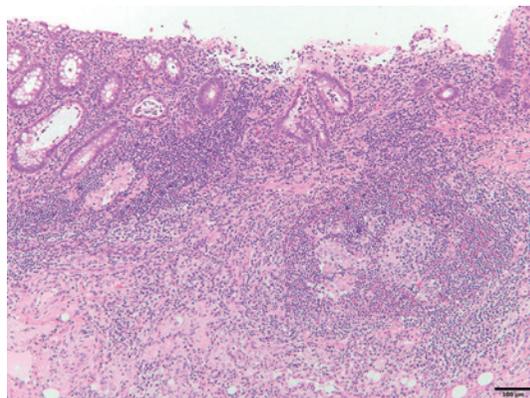


Figure 2. 病理組織学的所見：粘膜から粘膜下組織にかけてリンパ球主体の慢性炎症細胞浸潤のほか，2カ所に類上皮細胞肉芽腫を認める (HE染色， $\times 100$ ・原倍率)。

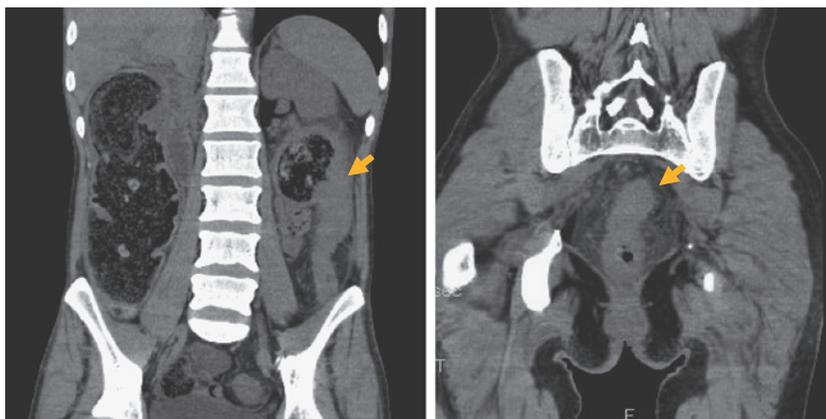
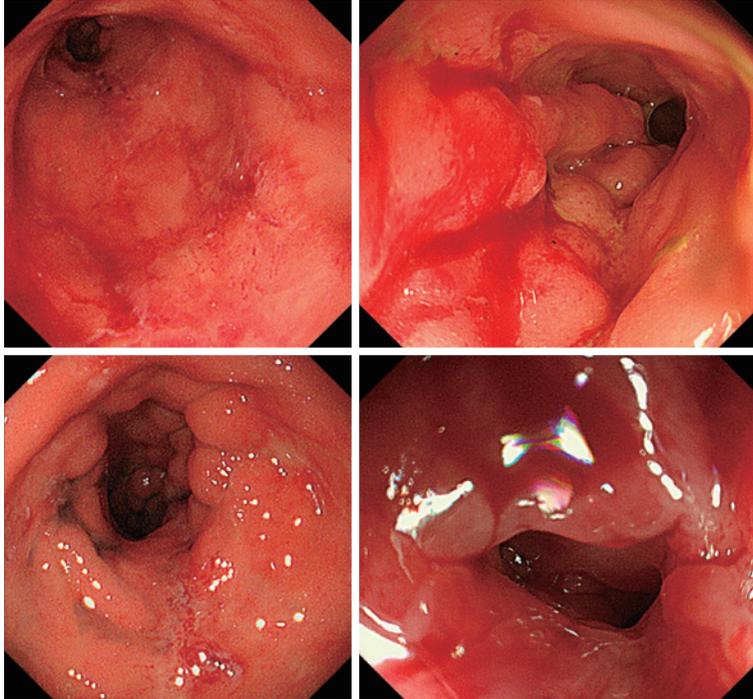


Figure 1. 腹部CT (単純)：下行結腸および直腸に狭窄を認め (橙矢印)，口側の横行結腸に便塊の貯留を認める。



**Figure 3.** 下部内視鏡所見：アフタや癒痕が多発しており、敷石像様の病変を認める。